

「今日の治療指針 1999 年版

私はこう治療している

多賀須幸男 総編集
尾形 悦郎

赤塚医院(港区)

赤 塚 祝 子

1959 年の創刊以来、臨床医の絶大な支持を受けてきた「今日の治療指針」、その 1999 年版を手に取り、改めて情報量の多さに驚くとともに、up to date の治療法を、第一線の専門家がやさしく解説していることに、心から嬉しく思った。

私が勤務していた公立病院の図書室には、新年度には必ず、新しい「今日の治療指針」が書棚に並び、内科外来や外科の病棟にも、2~3 年ごとに新しいこの年鑑がお目見えするのが普通だった(著者の寄贈によるものだったのだろう)。全国の病院や診療所で、「今日の治療指針」ほどポピュラーに置いてある本はほかにはないと思われる。

診療機の傍らにあると、いかに役立つかをお示ししよう。2 週間ほど前、中年の男性が“精液に血が混じるのですが…”という訴えで来院した。わが診療所の標榜は“内科・消化器科”で、“泌尿器科”ではないのにな、と思いつつ、仕方ないので診

察をした。生殖器に、別に異常はない。でも、もしかして前立腺や精巣に癌ができていたら大変なので、一応腫瘍マーカーを調べることにし、私は“まさか、載っているはずがない”と、半ば諦めつつ、おもむろに「今日の治療指針」を開いた。ところが、あったのですよね。“血精液症”という項目が。青い顔をしていた患者さんは、千葉大泌尿器科教授が執筆された最後の文章である“それほど心配はいらない”というのを見て、みるみる元気になって帰って行った。腫瘍マーカーが陰性であったのは、言うまでもない。残念だったのは、カルテに添付しようと、この項目のコピーを取ったのだが、わが医院の小さなコピー機には、荷が重すぎた。あまりの厚さに、内側がかすれてしまったのが、難点と言え言える。

また、イクラ弁当を食べて、数時間後に発症した腸炎ビブリオの患者さんの処置や、成人のハシカ(麻疹)

の患者さんの対処にも、この本は威力を発揮した。専門書を紐解く前に、まずどうにかしなくてはいけない患者さんが目の前にいる場合、すぐに治療法がわかるのは、何と云っててもありがたい。

1998 年版に比べ、項目は 972 から 977 へ、執筆者は 935 人から 947 人へと増加し、内容は更にパワー・アップしている。特に、抗癌剤の投与法については詳細に述べられており、ベッド数の不足から、悪性リンパ腫や乳癌の患者さんの化学療法が、開業医の手に委ねられるようになった昨今、大いに参考になるのではないだろうか。

- デスク版 B5 頁 1,542 図 16 写真 95 色図 145 表 89 1998 定価(本体 18,000 円+税) 円 700
- ポケット版 B6 定価(本体 14,500 円+税) 円 400

医学書院 刊(☎ 03-3817-5657)